

# 三重ヴォークスボーナ

津市を中心に活動を続ける混声合唱団「三重ヴォークスボーナ」は、70年を越える伝統を持ちます。老若男女が集い、楽しみに紡ぎ出す、調和した歌声が心地よく聞く人を包むのは、真摯な練習の積み重ねと「音楽が大好き！」な思いの熱さによるもの。毎年開催する定期演奏会などに向け、一生懸命な練習が続きます。



代表 宇陀 正人さん

## お問い合わせ

「三重ヴォークスボーナ」  
TEL 090-3442-2607  
(マネージャー 江藤 みちるさん)

混声の市民合唱団「三重ヴォークスボーナ」。今回は、練習日にお邪魔して、代表の宇陀 正人さんにお話を伺うとともに、稽古の様子を見せていただきました。

——歴史のある合唱団と伺っていますが、創立はいくつですか。

宇陀：昭和21（1946）年に活動を始めた「三重合唱団」を前身とし、創立されたのは昭和27（1952）年です。令和4年に70周年を迎え、この年の11月に三重県文化会館大ホールで創立70周年記念として、第65回目の定期演奏会を開きました。またこの年には、文化庁より、令和4年度の地域文化功労者表彰をい

いただきました。

——「ヴォークスボーナ」とはどういう意味ですか。

宇陀：ラテン語で「調和した声」という意味があるようです。それは、まさに私たちのめざすもので、団員みんなの声が美しく調和することを願っています。団員は略して「ボーナ」と呼んでいます。

——団員はどんな方たちですか。

宇陀：現在活動しているのは30人ほどで、20代から80代まで、色々な年代の団員がいます。職業もそれぞれ違います。男女の比率は、6対4くらいで男性がやや多いですね。

——最高齢だとおっしゃる方とお話したら、大変楽しいとおっしゃっていました。

いますし、「全日本合唱コンクール」や、「津市民文化祭」などにも参加しています。令和5年度の定期演奏会は11月に終わりましたが、令和6年度は12月に予定しています。たくさんの方に来場し

うなかたですが

宇陀：北後さんはボーナの7代目の指揮者で、ピアニストでもあります。現在は高校の先生をされていますが、高校生の時にピアノのコンクールで賞を取られ、京都大学理学部の大学院を修了されて以来ずっとボーナに関わっていただいています。

——どんな曲を歌っておられますか。

宇陀：童謡など懐かしい日本の歌や、宗教音楽、新しくつくられたものなどさまざまなジャンルの曲を歌っています。特に定期演奏会などの曲目は、幅広くバラエティーに富むようにしています。選曲は、北後さんが選ばれるものもありますし、団員から「歌いたい」と挙げられる曲もあり、みんなで選んでいます。

——練習の成果は、どんな所で披露されるのですか。

宇陀：毎年定期演奏会を開いて



さまざまな楽曲を合唱する



指揮者の北後 知尋さん



熱気あふれる練習風景



「三重県合唱コンクール」で\*

ていただきましたと思っています。

——ありがとうございました。寸暇を惜しむように練習される様子を、合唱への情熱を感じました。未永く活動を続けてください。

インタビュー：堀口裕世

宇陀：最高齢の方は、83歳です。声を出すことは健康にも良いですし、新しい曲を覚えたり、若い人たちと話し合うなど、頭脳も活性化できますね。楽しんで来てもらえるのは有り難いことです。声の調和には気持ちの調和が必要ですから、年齢の差は気になりません。

——練習を拝見すると、皆さん楽しそう

で、活発に意見交換されているのが印象的でした。  
宇陀：指揮者の北後知尋さんに指導をしていただいています。団員がそれぞれ感じたことを積極的に言い合っています。団員は全員、歌うことが大好きなので、楽しそうに見えるのでしょうね。

——指揮をされている北後さんはどのよ

\*印の写真は取材先から提供していただきました